

# DIAMコラム (2013/12/5)

## 『中南米のウサギとカメ～ブラジルVSメキシコ～』

中南米で注目されるブラジルとメキシコ。若い人口が多く資源も豊富、そしてラテン的と、何となく似たようなイメージのある2カ国ですが、比較してみると意外な違いが見られます。今回は、『違い』を切り口に両国の特徴を捉えてみましょう。

※ここではメキシコを中米と位置付けています。

### 【2カ国の指標から見える違い】

まずは、両国の主な経済指標を見てみましょう。人口やGDP(国内総生産)総額はブラジルのほうが大きいものの、1人当たりGDPはほぼ同水準にあるブラジルとメキシコ。

その中で、注目すべき指標が2つあります。1つ目は、直接投資受入額です。**ブラジルの直接投資はメキシコの約5倍(ジェトロ、2012年)にもなっています。**そして2つ目は、輸出額(対GDP比)です。**ブラジルでは輸出額がGDPのわずか1割を占める程度であるのに対し、メキシコでは約3割となっています。**

でもこれは一体どういうことなのでしょう。もう少し詳しく見てみましょう。

### ここがポイント…

ブラジルは企業による投資(直接投資)で、メキシコは貿易で成長してきたんだね。

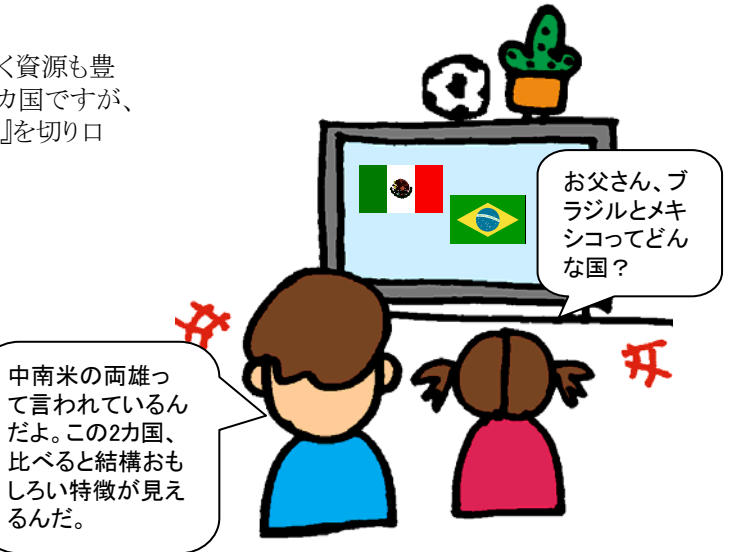


※右の表の青い線はP3で取り上げるよ

### 【内に向かうブラジルと外に向かうメキシコ】

1970年代までは高度成長を経験したブラジルとメキシコ。ところが1980年代以降、両国の経済成長は減速します。両国ともその後立ち直りを図るわけですが、その**戦略の方向性は正反対**そのものでした。

国内市場が大きいブラジルは、「**内側**」から成長を図りました。ブラジルは通商政策をメルコスール(南米南部共同市場)単位で行っていますが、域外の関税を高く設定することで、国内産業を保護し、国内産業の成長促進を優先させたのです。これによりブラジルでは中間所得層が大幅に増大。この**旺盛な消費意欲がブラジルの成長エンジン**になったというわけです。



【ブラジルとメキシコの各種指標】  
(2012年)

	ブラジル	メキシコ
面積(万平方キロメートル)	851	196
人口(億人)	1.98	1.17
実質GDP成長率(%)	0.87	3.60 ※
名目GDP(兆米ドル)	2.25	1.18 ※
1人当たり名目GDP(米ドル)	11,359	10,059
インフレ率(前年比、%)	5.84	4.05
経常収支(億米ドル)	-542 ※	-92
貿易収支(億米ドル)	194	2
輸出額(億米ドル)	2,426	3,709
輸入額(億米ドル)	2,231	3,708
輸出額(対GDP比)(%)	10.77	約3倍 31.50
外貨準備高(億米ドル)	3,696	1,604
直接投資受入額(億米ドル)	653	約5倍 127
財政収支(対GDP比)(%)	-2.68	-3.72
対外債務残高(億米ドル)	3,167	2,290

※ブラジルの人口と1人当たり名目GDPはIMF予測値です。

(出所:IMF、ジェトロ、外務省よりDIAM作成)

※当資料は、将来の市場動向等を示唆・保証するものではありません。※当資料は、DIAMが信頼できると判断した情報に基づき作成していますが、情報の完全性、正確性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。※巻末のご注意事項等を必ずご確認ください。

ちなみに、今、ブラジルでは人口の約9割、1億7千万人が中間所得層・富裕層(世帯年間可処分所得5千米ドル以上)だそうで、その規模の大きさには本当に驚かされます。

一方、メキシコは国内市場において**所得格差**という大きな問題を抱えていることもあり、「**外側**」からの成長を図りました。つまり**自由貿易体制の確立**です。現在、メキシコは44の国・地域とFTAを締結している(2013年3月)ほか、足元ではTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)への参加表明を行うなど、積極的な外交を行っています。これら**世界中に広がるFTAネットワークや、新興国の特徴の一つでもある安価な労働コスト、そして巨大消費市場である米国に隣接することもあり、メキシコは「北米の工場」として世界の企業から注目を集めたのです。**

### ちなみに・・・

中間所得層と富裕層の人口に占める割合は新興国平均で55%。ブラジルは87%(2010年)だから、その比率が相当高いんだ。

それにしても1億7千万人ってすごい巨大な市場だよな。



(出所: 経済産業省、IMFよりDIAM作成)

TPP参加表明で拡大中	アジア	北米	中米	南米	欧州	その他
メキシコ	日本	米国、カナダ	中米共同市場(5)	ウルグアイ、コロンビア、チリ、ペルー	EU(27)、EFTA(4)	イスラエル
ブラジル				アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、パラグアイ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア		イスラエル

※メキシコは2013年3月11日時点、ブラジルは2013年3月19日時点。※緑色の文字はメルコスール参加国  
※()内の数値は各地域の国数 (出所: ジェトロよりDIAM作成)

### 【世界の自動車生産台数ランキング】 (2012年) (単位: 万台)

順位	国名	生産台数
1	中国	1,927
2	米国	1,033
3	日本	994
4	ドイツ	565
5	韓国	456
6	インド	415
7	ブラジル	334
8	メキシコ	300
9	タイ	248
10	カナダ	246

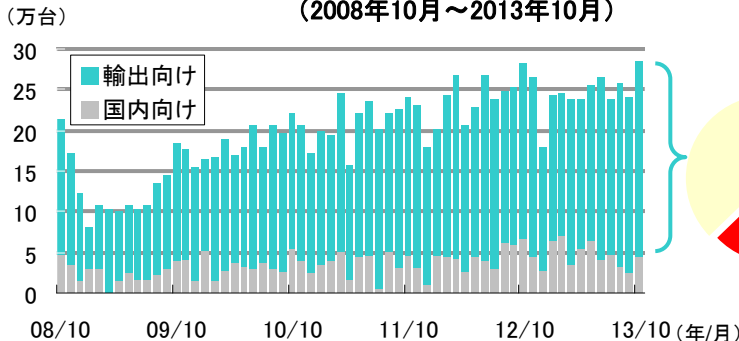
### 【「世界の市場」ブラジル、「米州大陸の工場」メキシコ】

ところで、ブラジルとメキシコというと、**中南米の2大自動車産業国**ですが、実は、この自動車産業でもその戦略の違いが見えてきます。

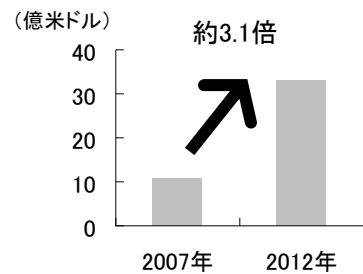
巨大な国内市場を有するブラジルでは、自動車販売が堅調で、10年前と比べ市場規模は2.4倍にも拡大(2013年10月時点)。この**旺盛な消費意欲を獲得しようと、世界の自動車メーカーがこぞってブラジル国内へと参入**しました。

一方、**メキシコの自動車産業活況の立役者は、ずばり「輸出」**。メキシコでは、**生産台数の8割以上が輸出向け**となっており、その多くが**世界最大の消費市場である隣国、米国へ輸出**されていることから、メキシコは「**北米の工場**」とも呼ばれています。また最近では、その傾向に変化が出始めました。これまでの米国に加え、中南米向けの輸出がここに来て増加しているのです。北米と南米をつなぐメキシコ。「**北米の工場**」から「**米州(南北アメリカ)大陸の工場**」、そして「**世界の工場**」へと、さらなる成長が期待されます。

### 【メキシコの自動車の月間生産台数と米国向け自動車輸出の割合】 (2008年10月～2013年10月)



### 【メキシコのメルコスール向け自動車輸出】



※2012年

(出所: JAMA、国連、BloombergよりDIAM作成)

※当資料は、将来の市場動向等を示唆・保証するものではありません。※当資料は、DIAMが信頼できると判断した情報に基づき作成していますが、情報の完全性、正確性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。※巻末のご注意事項等を必ずご確認ください。

## 【中南米のウサギとカメ、その勝敗は??】

さて、これまで、両国の成長戦略の方向性の違いについて見てきましたが、最後に成長スピードに注目してみましょう。

そもそも、2000年頃までほぼ同じ経済規模だったブラジルとメキシコ。先行したのはブラジルでした。2000年代初め、ブラジルがBRICsの一角として注目を集めたのは皆さんご存知のとおりです。ブラジルは好調な資源輸出で外貨を獲得し、高成長を果たしました。2000年～2010年の平均経済成長率は+3.7%、ピーク時には+7.5%(IMF)にも達しています。

一方、同期間のメキシコの経済成長は平均+2.1%(IMF)と低ペース。最大貿易相手国の米国の景気低迷に加え、エネルギー産業の国有企業による独占、累進税率に問題のある税制、そして麻薬問題などが観光客を遠ざけたこともあり、メキシコの経済は低迷しました。そのため、足元、GDP総額はブラジルの約2分の1となっています。

### ちなみに・・・



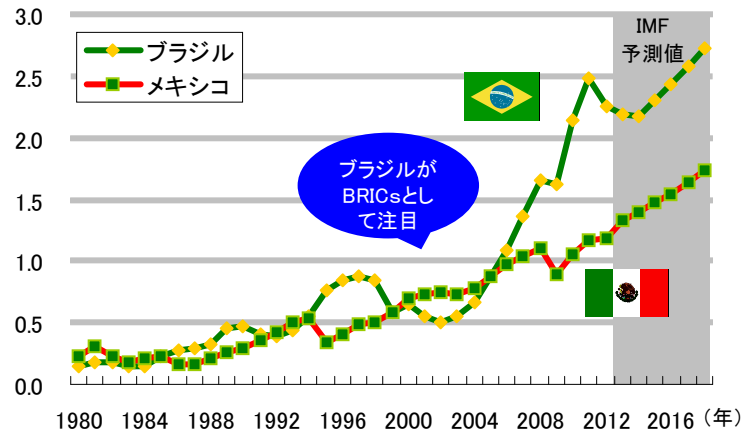
ブラジルは産業競争力を高めるため、2011年8月に「**ブラジル拡大計画**」を発表しさらなる国内産業の保護を実施。対するメキシコは、**所得格差の是正やエネルギー改革**などを主軸とした**大胆な構造改革**を2012年12月に発表しているよ。

一方、低成長時代に構造改革を行ったメキシコは、貿易赤字も国内でまかなえる程度であったことから、米QE縮小観測にもブラジルほど大きな影響は受けていません。また、FTAネットワークや安価な労働コスト、米国と隣接する地の利から、多くの海外企業が進出を発表しています。

中南米のウサギ(ブラジル)とカメ(メキシコ)。今後の展開が注目されます。

## 【ブラジル・メキシコのGDP推移】

(兆米ドル) (1980年～2018年、2013年以降はIMF予測値)



(出所:IMFよりDIAM作成)

ところが、ここに来てこの関係に変化が見られるようです。国内経済が急成長したブラジルは大幅な経常赤字となりました。そのため、国内貯蓄が不足し、海外からの資金流入に依存せざるを得ず、海外からの資金流入の動向に影響を受けやすい状況にあります。実際、米QE(量的緩和)縮小観測が強まると、ブラジルからの資金流出は加速。また、低成長にも関わらず、インフレ率はインフレ目標の上限近辺で推移しており、これによる家計の実質購買力の低下は経済成長の下押し圧力となっています。

### ◆◆ポイント◆◆

1. 1億7千万人という大きな国内市場を持つブラジル。国内産業を保護することで、現在は「世界の市場」として世界中から注目されています。
2. メキシコは海外市場に注目。積極的な外交で、自由貿易体制の確立をめざしており、現在もそのエリアは拡大中です。「世界の工場」として注目されています。
3. 先行するブラジルと猛追するメキシコ、中南米の両雄の今後の展開が期待されます。



関連レポートはこちら

『メキシコ、躍進の背景』(2013/10/21)

(出所:各種報道よりDIAM作成)

**【投資信託に係るリスクと費用】****投資信託に係るリスクについて**

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証及び利回り保証のいずれもありません。

**投資信託に係る費用について**

[ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。]

- お客様が直接的に負担する費用……購入時手数料: 上限3.675%\*(税込)
  - \* 消費税率が8%になった場合は、上限3.78%となります。信託財産留保額: 上限0.5%
- お客様が信託財産で間接的に負担する費用……運用管理費用(信託報酬): 上限 年率1.995%\*(税込)
  - \* 消費税率が8%になった場合は、上限 年率2.052%となります。
- その他費用・手数料……上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。

投資信託説明書(交付目論見書)等でご確認下さい。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、DIAMアセットマネジメント(株)が運用するすべての投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しております。

**【ご注意事項】**

- ・当資料は、DIAMアセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- ・当資料は情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・当資料は、DIAMアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- ・当資料における内容は作成時点(2013年12月2日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

**投資信託は**

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額については元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。